

201322037A

厚生労働科学研究費補助金
難治性疾患等克服研究事業
(免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業)

我が国における関節リウマチ治療の標準化に関する多層的研究

平成 25 年度 総括・分担研究報告書

平成 26 年 3 月

研究代表者 宮 坂 信 之

目次

I. 構成員名簿	1
II. 総括研究報告	
研究代表者 宮坂信之	
我が国における関節リウマチ治療の標準化に関する多層的研究	7
(研究代表者) 東京医科歯科大学 名誉教授 宮坂信之	
III. 分担研究報告	
【RA診療ガイドライン作成分科会】 分科会長 山中 寿	
1. 関節リウマチ診療ガイドライン作成のための	
「患者の治療に対する意識」に関する研究	15
(研究分担者) 名古屋市立大学大学院医学研究科 公衆衛生学分野 准教授 小嶋 雅代	
(研究分担者) 京都大学大学院医学研究科 健康情報学 教授 中山 健夫	
(研究協力者) 日本リウマチ友の会 会長 長谷川 三枝子	
2. RA 診療ガイドライン作成分科会:	
平成 25 年度ガイドライン作成経緯に関する報告書	19
(分科会長・研究分担者) 東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター 教授 山中 寿	
3. ガイドラインに関係する統計学的研究	25
(研究協力者) 東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター 客員教授 鎌谷 直之	
(分科会長・研究分担者) 東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター 教授 山中 寿	
【RA臨床疫学データベース構築分科会】 分科会長 針谷正祥	
1. 活動性早期 RA 患者における MTX をアンカードラッグとする計画的強化治療の有効性と安全性に関するランダム化並行群間比較試験	
(活動性早期 RA 強化治療試験)	29
(分科会長・研究分担者) 東京医科歯科大学大学院	
医歯学総合研究科薬害監視学講座 教授 針谷正祥	
2. 中・高疾患活動性関節リウマチ患者における「目標達成に向けた治療」に関する臨床疫学的研究 (T2T 疫学研究)	33
(分科会長・研究分担者) 東京医科歯科大学大学院	
医歯学総合研究科薬害監視学講座 教授 針谷正祥	

3. 関節リウマチにおける合併症に関する研究 (COMORA 試験) 38
(分科会長・研究分担者) 東京医科歯科大学大学院

医歯学総合研究科薬害監視学講座 教授 針谷正祥

4. 大規模保険データベースを用いた関節リウマチの合併症研究 42
(研究協力者) 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科薬害監視学講座 助教 酒井良子
(分科会長・研究分担者) 東京医科歯科大学大学院

医歯学総合研究科薬害監視学講座 教授 針谷正祥

【RA 診療拠点病院ネットワーク構築分科会】 分科会長 小池隆夫

1. 関節リウマチ診療拠点病院ネットワークの構築 47
(分科会長・研究分担者) 北海道大学 名誉教授/NTT 東日本札幌病院 院長 小池隆夫

2. 関節エコーによる滑膜病変評価の標準化に関する基礎的検討 50
(研究協力者) 千葉大学医学部附属病院アレルギー・膠原病内科 助教 池田 啓
(分科会長・研究分担者) 北海道大学 名誉教授/NTT 東日本札幌病院 院長 小池隆夫

3. 関節超音波検査の画像的寛解判断に関する滑膜血流シグナルの意義 55
(研究協力者) 北海道内科リウマチ科病院 院長 谷村一秀
(分科会長・研究分担者) 北海道大学 名誉教授/NTT 東日本札幌病院 院長 小池隆夫

4. 診療拠点病院ネットワーク構築のための関節超音波検査の標準化と普及活動 . . . 58
(研究協力者) 東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター 講師 瀬戸洋平
(分科会長・研究分担者) 北海道大学 名誉教授/NTT 東日本札幌病院 院長 小池隆夫

5. 関節超音波検査を用いた早期関節リウマチの分類(診断)基準(新 Nagasaki criteria)
の有用性の検討 60

(研究協力者) 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科展開医療科学講座 教授 川上 純

(分科会長・研究分担者) 北海道大学 名誉教授/NTT 東日本札幌病院 院長 小池隆夫

IV. 研究成果の刊行に関する一覧表 65

V. 論文別刷 91

I. 構 成 員 名 簿

平成25年度 厚労省指定研究／構成員名簿(研究代表・分担者)

区分	氏名	職名	所 属	所属分科会
研究代表者	宮坂 信之	名誉教授	東京医科歯科大学	
研究分担者	天野 宏一	教授	埼玉医科大学総合医療センターリウマチ・膠原病内科	RA臨床疫学データベース構築
	伊藤 宣	特定准教授	京都大学大学院医学研究科リウマチ性疾患制御学講座	RA診療ガイドライン作成
	遠藤 平仁	准教授	東邦大学医学部内科学講座(大森) 膠原病科	RA診療ガイドライン作成
	金子 祐子	助教	慶應義塾大学医学部リウマチ内科	RA診療ガイドライン作成 RA臨床疫学データベース構築
	鎌谷 直之	客員教授	東京女子医科大学膠原病リウマチ痛風センター	RA診療ガイドライン作成
	川上 純	教授	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科展開医療科学講座	RA臨床疫学データベース構築 RA診療拠点病院ネットワーク構築(研究協力者)
	川人 豊	准教授	京都府立医科大学大学院医学研究科免疫内科学	RA診療ガイドライン作成
	岸本 暢将	医長	聖路加国際病院アレルギー膠原病科	RA診療ガイドライン作成
	小池 隆夫	名誉教授	北海道大学大学院医学研究科内科学講座第二内科	RA診療拠点病院ネットワーク構築(分科会長)
	小嶋 俊久	講師	名古屋大学医学部附属病院整形外科	RA診療ガイドライン作成
	小嶋 雅代	准教授	名古屋市立大学大学院医学研究科公衆衛生学分野	RA診療ガイドライン作成
	瀬戸 洋平	講師	東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター	RA診療ガイドライン作成 RA診療拠点病院ネットワーク構築(研究協力者)
	中山 健夫	教授	京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康情報学分野	RA診療ガイドライン作成
	西田 圭一郎	准教授	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科人体構成学整形外科	RA診療ガイドライン作成
	針谷 正祥	教授	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科薬害監視学講座	RA臨床疫学データベース構築(分科会長)
	平田 信太郎	講師	産業医科大学医学部第一内科学講座	RA診療ガイドライン作成
	松井 利浩	医長	独立行政法人国立病院機構相模原病院リウマチ科	RA臨床疫学データベース構築
松下 功	講師	富山大学医学部整形外科	RA診療ガイドライン作成	
山中 寿	教授	東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター	RA診療ガイドライン作成(分科会長)	

RA診療ガイドライン作成分科会 構成員名簿

区分	氏名	職名	所 属
分科会長	山中 寿	教授	東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター
研究分担者	伊藤 宣	特定准教授	京都大学大学院医学研究科リウマチ性疾患制御学講座
	遠藤平仁	准教授	東邦大学医学部内科学講座（大森）膠原病科
	金子祐子*	助教	慶應義塾大学医学部リウマチ内科
	鎌谷直之	客員教授	東京女子医科大学膠原病リウマチ痛風センター
	川人 豊	准教授	京都府立医科大学大学院医学研究科免疫内科学
	岸本暢将	医長	聖路加国際病院アレルギー膠原病科
	小嶋俊久	講師	名古屋大学医学部附属病院整形外科
	小嶋 雅代	准教授	名古屋市立大学大学院医学研究科公衆衛生学分野
	瀬戸洋平*	講師	東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター
	中山健夫	教授	京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康情報学分野
	西田圭一郎	准教授	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科人体構成学整形外科
	平田信太郎	講師	産業医科大学医学部第一内科学講座
	松下 功	講師	富山大学医学部整形外科
研究協力者	長谷川三枝子	会長	公益社団法人 日本リウマチ友の会
	津谷喜一郎	特任教授	東京大学大学院薬学系研究科・医薬政策学
	五十嵐 中	特任助教	東京大学大学院薬学系研究科・医薬政策学

* 金子先生はRA臨床疫学データベース構築分科会の研究分担者兼務／瀬戸先生はRA診療拠点病院ネットワーク構築分科会の研究協力者兼務

RA臨床疫学データベース構築分科会 構成員名簿

1/2

区分	氏名	職名	所 属
分科会長	針谷 正祥	教授	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科薬害監視学講座
研究分担者	天野 宏一	教授	埼玉医科大学総合医療センターリウマチ・膠原病内科
	金子 祐子*	助教	慶應義塾大学医学部リウマチ内科
	川上 純*	教授	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科展開医療科学講座
	松井 利浩	医長	独立行政法人国立病院機構相模原病院リウマチ科
研究協力者	渥美 達也	教授	北海道大学大学院医学研究科免疫・代謝内科学分野
	伊藤 聡	副院長	新潟県立リウマチセンターリウマチ科
	猪尾 昌之	院長	医療法人社団協志会 宇多津浜クリニック
	岩橋 充啓	院長	東広島記念病院リウマチ膠原病センター
	太田 修二	院長	おあしす内科リウマチ科クリニック
	奥田 恭章	院長	道後温泉病院リウマチセンター内科
	金子 佳代子	医長	草加市立病院膠原病内科
	齋藤 和義	准教授	産業医科大学医学部第1内科学講座
	酒井 良子	助教	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科薬害監視学講座
	杉原 毅彦	医長	東京都健康長寿医療センター膠原病リウマチ科
	田村 直人	先任准教授	順天堂大学医学部膠原病内科
	土橋 浩章	講師	香川大学医学部内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科

*金子祐子先生はRA診療ガイドライン作成分科会の研究分担者兼務／川上純先生はRA診療拠点病院ネットワーク構築分科会の研究協力者兼務

RA臨床疫学データベース構築分科会 構成員名簿

2/2

区分	氏名	職名	所 属
研究協力者	長坂 憲治	部長	青梅市立総合病院リウマチ・膠原病科
	野々村 美紀	部長	国家公務員共済組合連合会東京共済病院リウマチ膠原病科
	萩山 裕之	部長	横浜市立みなと赤十字病院リウマチ科
	林 太智	准教授	筑波大学医学医療系内科(膠原病・リウマチ・アレルギー) / 筑波大学附属病院ひたちなか社会連携教育研究センター
	日高 利彦	所長	善仁会市民の森病院膠原病・リウマチセンター
	平田 真哉	助教	熊本大学医学部附属病院血液内科・膠原病内科・感染免疫診療部
	藤井 隆夫	特定准教授	京都大学大学院医学研究科リウマチ性疾患制御学講座
	吉見 竜介	助教	横浜市立大学医学部免疫・血液・呼吸器内科学

RA診療拠点病院ネットワーク構築分科会 構成員名簿

区分	氏名	職名	所 属
分科会長	小池 隆夫	名誉教授	北海道大学大学院医学研究科内科学講座第二内科
研究協力者	池田 啓	助教	千葉大学医学部附属病院アレルギー・膠原病内科
	川上 純*	教授	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科展開医療科学講座
	瀬戸洋平*	講師	東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター
	谷村 一秀	理事長 院長	北海道内科リウマチ科病院

*川上純先生はRA臨床疫学データベース構築分科会の研究分担者兼務／瀬戸洋平先生はRA診療ガイドライン作成分科会の研究分担者兼務

Ⅱ. 総括研究報告

(研究代表者)

厚生労働科学研究費補助金

難治性疾患等克服研究事業(免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業 免疫アレルギー研究分野)

総括研究報告書

我が国における関節リウマチ治療の標準化に関する多層的研究

研究代表者 宮坂信之 東京医科歯科大学 名誉教授

研究要旨:我が国の関節リウマチ診療の標準化を目指して、1)エビデンスに基づいた診療ガイドラインの作成、2)リウマチ診療の地域格差、施設間格差などに関する実態調査のための疫学データベースの構築、3)医療の標準化・及び拠点病院の構築、などの研究活動を多角的に行う。これらの多層的研究により、我が国の関節リウマチ診療が人種差を考慮しつつグローバルスタンダードに合致したものとなることが期待される。

研究分担者

天野宏一 埼玉医科大学総合医療センターリウマチ・膠原病内科 教授
伊藤 宣 京都大学大学院医学研究科リウマチ性疾患制御学講座 特定准教授
遠藤平仁 東邦大学医学部内科学講座(大森) 膠原病科 准教授
金子祐子 慶應義塾大学医学部リウマチ内科 助教
鎌谷直之 東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター 客員教授
川上 純 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科展開医療科学講座 教授
川人 豊 京都府立大学大学院医学研究科免疫内科学 准教授
岸本暢将 聖路加国際病院アレルギー膠原病科 医長
小池隆夫 北海道大学大学院医学研究科内科学講座第二内科 名誉教授
小嶋俊久 名古屋大学医学部附属病院整形外科 講師
小嶋雅代 名古屋市立大学大学院医学研究科公衆衛生学 准教授
瀬戸洋平 東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター 講師
中山健夫 京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康情報学分野 教授
西田圭一郎 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科人体構成学 整形外科 准教授
針谷正祥 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科薬害監視学講座 教授
平田信太郎 産業医科大学医学部第一内科学講座 講師
松井利浩 (独)国立病院機構相模原病院リウマチ科 医長
松下 功 富山大学医学部整形外科 講師
山中 寿 東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター 教授

研究協力者

【RA診療ガイドライン作成分科会 分科会長:山中 寿】
津谷喜一郎 東京大学大学院薬学系研究科・医薬政策学 特任教授
五十嵐 中 東京大学大学院薬学系研究科・医薬政策学 特任助教
長谷川三枝子 (社)日本リウマチ友の会 会長

【RA臨床疫学データベース構築分科会 分科会長:針谷正祥】
渥美達也 北海道大学大学院医学研究科内科学講座第二内科 教授
伊藤 聡 新潟県立リウマチセンターリウマチ科 副院長
猪尾昌之 医療法人社団協志会宇多津浜クリニック 院長

岩橋充啓 東広島記念病院リウマチ膠原病センター 院長
太田修二 おあしす内科リウマチ科クリニック 院長
奥田恭章 道後温泉病院リウマチセンター内科 院長
金子佳代子 草加市立病院膠原病内科 医長
齋藤和義 産業医科大学医学部第一内科学講座 准教授
酒井良子 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科薬害監視学講座 助教
杉原毅彦 東京都健康長寿医療センター膠原病リウマチ科 医長
田村直人 順天堂大学医学部膠原病内科 前任准教授
土橋浩章 香川大学医学部内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科 講師
長坂憲治 青梅市立総合病院リウマチ・膠原病科 部長
野々村美紀 国家公務員共済組合連合会東京共済病院リウマチ膠原病科 部長
萩山裕之 横浜市立みなと赤十字病院膠原病リウマチ内科 部長
林 太智 筑波大学医学医療系内科(膠原病・リウマチ・アレルギー)／筑波大学附属病院ひたちなか社会連携教育研究センター 准教授
日高利彦 善仁会市民の森病院膠原病・リウマチセンター 所長
平田真哉 熊本大学医学部附属病院血液内科・膠原病内科・感染免疫診療部 助教
藤井隆夫 京都大学大学院医学研究科リウマチ性疾患制御学講座 特定准教授
吉見竜介 横浜市立大学医学部免疫・血液・呼吸器内科学 助教

【RA診療拠点病院ネットワーク構築分科会 分科会長:小池隆夫】
池田 啓 千葉大学医学部附属病院アレルギー・膠原病内科 助教
谷村一秀 北海道内科リウマチ科病院 院長

(研究分担者兼務者は記載省略)

A. 研究目的

我が国の関節リウマチ診療の標準化を目指して、
1) エビデンスに基づいた診療ガイドラインの作成、
2) リウマチ診療の地域格差、施設間格差な

どに関する実態調査のための疫学データベースの構築、3) 医療の標準化・及び拠点病院の構築、などの研究活動を多角的に行う。

B. 研究方法

本研究の目的は、我が国におけるRA診療の標準化であり、その目標達成のために3つの分科会形式で研究チームを構成している点が特徴的である。

1) RA診療ガイドライン作成分科会：生物学的製剤の導入により、関節リウマチの治療は大きく変貌を遂げており、アメリカリウマチ学会は2008年に、ヨーロッパリウマチ学会は2010年に、それぞれリウマチ診療ガイドラインを作成している。これに対して、我が国では平成16年に厚生労働省研究班によって作成されたものが最後であり、昨今の急速なリウマチ診療の進歩を反映したものにはなっていない。このため、Systemic Literature Review (SLR) の手法を駆使して、エビデンスの質と強さを分離するGRADE

recommendationに基づいたリウマチ診療ガイドラインを作成することを目指し、リウマチ専門医、臨床疫学者、医学統計学者、患者代表などからなるメンバーで診療ガイドラインガイドライン案を作成する。なお、本ガイドライン作成のステップとしては、1年目にクリニカルクエスチョンを作成し、関連論文のSLRと評価、2年目にガイドラインの策定、3年目にパブリックコメントとエキスパートオピニオンによる最終策定を計画している。

2) RA臨床疫学データベース構築分科会：RA診療の国際標準に基づいて、我が国におけるRA診療の現状と問題点を臨床疫学的手法により明らかにし、RA診療拠点病院を中心とする新診療GLに基づく標準的診療を普及させるための基礎的なデータを提供する。具体的には、a. 活動性早期RA患者におけるMTXをアンカードラッグとする計画的強化治療の有効性と安全性に関するランダム化並行群間比較試験（活動性早期RA強化治療試験）b. 中・高疾患活動性RA患者における「目標達成に向けた治療」に関する臨床疫学的研究（T2T疫学試験）、c. 関節リウマチにおける合併症に関する研究（COMORA; comorbidity of RA試験）などを3年計画で行う。活動性早期RA強化治療試

験は、我が国の早期活動性RA患者を対象にメトトレキサート（MTX）の急速増量法と最大耐用量投与による寛解達成とその維持を治療目標とする計画的強化治療の有効性と安全性を、患者の治療反応性をみながら治療強度を調整する従来の治療方法と比較・検討するランダム化群間並行比較試験である。T2T疫学試験は、中・高疾患活動性を有するRA患者に対してT2Tの治療アルゴリズムに基づいた治療を行い、寛解または低疾患活動性導入とその維持が、関節構造変化及び身体機能に与える影響を同定することを主目的としている。COMORA研究は、RA患者における各種合併症の頻度及び合併症に対する診療に関して系統的な調査を行うことを目的とした国際共同研究である。また、本年度は我が国の保険データベースであるJapan Medical Data Center Claims dataを用いた解析も併せて行った。なお、2012年1月から同年6月の被登録者のうち、同期間中にRAの診断名が2回以上、2か月以上の間隔を置いて付与された18歳以上の被登録者をRA患者と定義している。

3) RA 診療拠点病院ネットワーク構築分科会： 関

節リウマチ診療拠点病院形成のための一つのツールとして関節超音波検査を選び、関節超音波検査の標準化・普及活動を通じて RA 診療拠点病院ネットワークの構築を行う。具体的には、1) 関節超音波検査の評価法の標準化、2) 関節超音波検査を普及させるための講習会実施指針とモデルの作成、3) 関節超音波検査担当者を対象とした RA に対する教育活動並びに検査方法の講習会、4) 関節超音波検査を用いた RA の新たな診断（分類）基準の作成、などを行う。すでに、日本リウマチ学会では関節リウマチ超音波標準化小委員会を設置して、関節超音波検査の標準化・普及に努力をしている。また、昨年度より各支部学術集会において関節超音波検査講習会を開始している。このため、この活動をさらに全国に展開すべく、3年計画で関節超音波検査の標準化・普及活動を通じて診療拠点病院ネットワークの構築を行う。

C. 研究結果

1) RA 治療ガイドライン作成分科会において、過去2年間で集積したエビデンスの質の調査に基づき、GRADE による推奨度の評価を行った。その結果、現時点までに得られた原案と推奨度は別紙資料^(注)に示す。なお、本治療ガイドラインの作成は、日本リウマチ友の会 2,222 名に対して行われたアンケート調査結果を反映させながら、患者代表である日本リウマチ学会 3 名の同席のもとに行われた。

(注)別紙資料については、山中分科会の分担研究報告書を参照

2) 活動性早期 RA 強化治療試験では、本研究は多施設共同ランダム化群間並行比較オープン試験であり、計 24 施設にて平成 24 年 5 月より実施した。

“MTX を中心とする計画的強化治療群”および“通常治療群”各 120 症例ずつ、計 240 症例を目標に設定した。平成 24 年 5 月より登録を開始し、平成 26 年 1 月現在、114 例が登録されており、平成 25 年 10 月の時点で 24 週間までのデータが得られている 77 例（強化治療群：21 例、通常治療群：23 例）を対象に解析を行った。強化治療群で研究計画書に規定した MTX 最大到達量に達した症例は 17 例(81.0%)であり、MTX 不耐であった症例はいなかった。12 週時点で SDAI 寛解を達成した症例は強化治療群：4 例(19.0%)、通常治療群：0 例であり、強化治療群で有意に SDAI 寛解達成率が高かった(P=0.03)。一方、24 週時点の SDAI 寛解率は強化治療群：10 例(47.6%)、通常治療群 8 例(34.8%)であり、強化治療群で寛解率が高い傾向にあるものの、有意差はなかった。有害事象の発現については、強化治療群：10 件、8/21 例(38.1%)、通常治療群：11 件、10/23 例(43.5%)であり、両群間で有意差はなかった。本研究結果を解析することにより、我が国における MTX を基軸とした早期 RA の標準的治療を確立するための重要なエビデンスが得られると期待される。

中・高疾患活動性 RA 患者における「目標達成に向けた治療」に関する臨床疫学的研究(T2T 疫学試験)では、目標症例数 311 例のところ 308 例が登録された。282 例について登録時のデータが得

られ、さらに 202 例について 48 週間までのデータが得られた。48 週での Simplified Disease Activity Index (SDAI) 寛解率は 48%、HAQ(Health Assessment Questionnaire) 寛解率は 61%、T2T 実施率は登録時から 24 週で 85%、24 週から 48 週で 86%と良好であった。vdH-modified Total Sharp Score(vdH-mTSS)が評価できた 183 例では 27%に有意な関節破壊の進行がみられた。72 週後の HAQ 等の評価による機能的予後および vdH-mTSS での画像的予後を平成 27 年 4 月までに収集し、これらを規定する因子を、多変量解析により同定する予定である。

COMORA study は、日本、アルゼンチン、オーストリア、エジプト、フランス、ドイツ、イタリア、韓国、モロッコ、オランダ、スペイン、台湾、イギリス、米国、ベネズエラの計 17 か国で行われた(主任研究者:Maxime Dougados 教授)。17 か国から 4586 例の RA 患者が登録され(日本からは計 207 例の RA 患者を登録)、このうちの 3920 例が解析された。その結果、RA 患者は高い既往・合併症率を有し、心血管リスク因子を高率に保有していることが改めて明らかにされ、RA の治療において各種合併症に対する適切な対応が重要であることが改めて明確となった。また、我が国の RA 患者の特性も明らかとなった。

我が国の保健データベース、Japan Medical Data Center Claims Data (JMDC Claims Data) を用いた解析では、RA 2,762 名(平均年齢 50.4±11.3 才、女性 74.1%)、非 RA (27,620 名、平均年齢 50.0±11.1、女性 74.1%)を対象として用いた。その結果、調査対象の各合併症の有病率(RA vs. 非 RA)は、狭心症(4.5% vs. 1.2%)、急性心筋梗塞(0.4% vs. 0.1%)、虚血性心疾患(5.0% vs. 1.4%)、高血圧(23.6% vs. 9.0%)、高脂血症(20.1% vs. 7.3%)、糖尿病(6.0% vs. 2.5%)、骨粗鬆症(19.9% vs. 1.2%)といずれの合併症においても RA 群の方が非 RA 群と比較して有意に高かった。また、背景因子で調整した非 RA 群に対する RA 群の合併症リスクを算出した結果、いずれ

の合併症においても有意な上昇を認め、RA と各合併症の間の有意な関連性が示された。

3) 関節超音波検査の標準化・普及活動を通じて、関節リウマチ診療拠点病院のネットワークを我が国に構築する事を目的に本研究分科会活動を行った。関節超音波検査の標準化のために、評価法の妥当性を検討した。また、これまでに両側手指 22 関節の超音波検査を施行し、パワードプラ (PD) グレード 2 以上が RA に最も特異的な所見であること、また、2010 RA 分類基準に PD グレード 2 以上を加えることで、RA の診断精度が上がることを報告した [新 Nagasaki criteria : Kawashiri SY, et al. Mod Rheumatol. 2013 Jan;23(1):36-43.] が、今年度は新 Nagasaki criteria の検証を行った。対象は関節エコー施行時に未治療早期関節症の 193 症例であるが、その結果、1. PD グレード 2 以上は RA 診断に妥当であり、2010 RA 分類基準との組み合わせで RA 診断能が向上すること 2. これは発症 6 ヶ月未満の症例および自己抗体陰性の症例にも適応できること 3. しかしながら PD グレード 2 以上を呈する non-RA 症例も散見されることが検証された。また、この PD シグナルは生物学的製剤の臨床的治療反応にも関連することも明らかとなった。このほか、講習会を通じた関節リウマチ診療の標準化と質の向上を目指すため、診療拠点病院の医師、検査技師を対象とした関節超音波講習会実施のための指針を作成し、日本リウマチ学会各支部による講習会を実施した。同時に本邦における関節超音波検査普及状況に応え、前年度提言した開催指針に則り、新たに中上級者向け講習会を開催した。

D. 考察

1) 新たな RA 治療ガイドラインの作成を通して、我が国の診療環境においてエビデンスに基づいた最新の診療を行うことが可能になり、我が国の RA 診療の標準化及び適正化が可能になることが期待される。また、本ガイドラインは、日本リウマチ学会を中心としてパブリックコメントを募り、検証された後、電子媒体を通じて全国に広く提供される予定である。

2) 我が国においても、MTX をアンカードラッグとする計画的強化療法の有効性と安全性が確認されつつあり、我が国における標準的治療法の確立に資すると思われる。

3) 「目標達成に向けた治療」(T2T) が我が国においても有用であり、T2T の実施によって高い寛解率が得られることが明らかとなった。また、T2T を実践する上での我が国の問題点も明確となりつつある。

4) COMORA study を通じて、諸外国と我が国の RA 患者の比較が可能となり、彼等の RA 患者の疫学的特性が明らかにされた。

5) 我が国の大規模データベース (JMDC Claims Data) を用いた解析により、我が国 RA 患者の疫学的データが明らかにされるとともに、我が国 RA 患者が心血管障害、高脂血症、糖尿病、骨粗鬆症などの合併症を高頻度に有することが明らかとなった。これは、我が国においては、未だ早期発見・早期治療の導入が不十分であること、寛解達成に向けた治療がこれまでは徹底されていなかったことが示唆される。また、今後、ステロイド治療との関連性についても検討が必要であろう。

6) 関節超音波検査の標準化及び普及活動を行うことで、各地域に高度の専門性を有する RA 診療拠点病院を設置できる可能性が明確となった。また、関節超音波検査が RA 早期診断にきわめて有用であることも明らかとなった。

7) 「リウマチ対策」が講じられた結果、RA の総合的疾患活動性指標として DAS28, SDAI, CDAI などが日常診療にも導入されるようになった。さらに、これらの総合的疾患活動性指標を用いながら「目標達成に向けた治療」(treat-to-target; T2T) を行うことが、我が国においても根付きつつあることは喜ばしい。また、我が国においても、関節破壊の客観的指標として modified total Sharp score (mTSS) が用いられていることも明らかとなった。

8) 薬剤の安全性評価については、我が国のみで行われた各種生物学的製剤の市販後全例調査が世界的に大きなエビデンスをもたらした。また、IORRA、REAL、NinJa などの RA 患者データベースが我が国でも構築

され、我が国RA患者の特性が明らかにされるとともに、薬剤の適正使用に大きく貢献をしている。

E. 結論

本研究の成果は、我が国の関節リウマチ診療の標準化及び適正化、関節リウマチ患者の疫学データベースの構築と発展、診療の地域格差の縮小・改善に大きく貢献するものと思われる。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

論文発表

1. Takamura A, Hirata S, Nagasawa H, Kameda H, Seto Y, Atsumi T, Dohi M, Koike T, Miyasaka N, Harigai M. A retrospective study of serum KL-6 levels during treatment with biological disease-modifying antirheumatic drugs in rheumatoid arthritis patients: a report from the Ad Hoc Committee for Safety of Biological DMARDs of the Japan College of Rheumatology. *Mod Rheumatol.* 23(2):297-303, 2013
2. Harigai M, Takamura A, Atsumi T, Dohi M, Hirata S, Kameda H, Nagasawa H, Seto Y, Koike T, Miyasaka N. Elevation of KL-6 serum levels in clinical trials of tumor necrosis factor inhibitors in patients with rheumatoid arthritis: a report from the Japan College of Rheumatology Ad Hoc Committee for Safety of Biological. *Mod Rheumatol.* 23(2):284-296, 2013
3. Takeuchi T, Matsubara T, Nitobe T, Suematsu E, Ohta S, Honjo S, Abe T, Yamamoto A, Miyasaka N; Japan Abatacept Study Group. Phase II dose-response study of abatacept in Japanese patients with active rheumatoid arthritis with an inadequate response to methotrexate. *Mod Rheumatol.* 23(2):226-235, 2013
4. Matsubara T, Yamana S, Takeuchi T, Kondo H, Kohsaka H, Ozaki S, Hashimoto H, Miyasaka N, Yamamoto A, Hiraoka M, Abe T. Tolerability and

efficacy of abatacept in Japanese patients with rheumatoid arthritis: a phase I study. *Mod Rheumatol.* 23(4):634-645, 2013

5. Takeuchi T, Harigai M, Tanaka Y, Yamanaka H, Ishiguro N, Yamamoto K, Miyasaka N, Koike T, Kanazawa M, Oba T, Yoshinari T, Baker D; GO-MONO study group. Golimumab monotherapy in Japanese patients with active rheumatoid arthritis despite prior treatment with disease-modifying antirheumatic drugs: results of the phase 2/3, multicenter, randomized, double-blind, placebo-controlled GO-MONO study through 24 weeks. *Ann Rheum Dis.* 72(9):1488-1495, 2013
6. Takeuchi T, Miyasaka N, Zang C, Alvarez D, Fletcher T, Wajdula J, Yuasa H, Vlahos B. A phase 3 randomized, double-blind, multicenter comparative study evaluating the effect of etanercept versus methotrexate on radiographic outcomes, disease activity, and safety in Japanese subjects with active rheumatoid arthritis. *Mod Rheumatol.* 23(4):623-633, 2013
7. Miyabe C, Miyabe Y, Miura NN, Takahashi K, Terashima Y, Toda E, Honda F, Morio T, Yamagata N, Ohno N, Shudo K, Suzuki J, Isobe M, Matsushima K, Tsuboi R, Miyasaka N, Nanki T. Am80, a retinoic acid receptor agonist, ameliorates murine vasculitis through the suppression of neutrophil migration and activation. *Arthritis Rheum.* 65(2):503-512, 2013
8. Watanabe K, Sakai R, Koike R, Sakai F, Sugiyama H, Tanaka M, Komano Y, Akiyama Y, Mimura T, Kaneko M, Tokuda H, Iso T, Motegi M, Ikeda K, Nakajima H, Taki H, Kubota T, Kodama H, Sugii S, Kuroiwa T, Nawata Y, Shiozawa K, Ogata A, Sawada S, Matsukawa Y, Okazaki T, Mukai M, Iwahashi M, Saito K,

- Tanaka Y, Nanki T, Miyasaka N, Harigai M. Clinical characteristics and risk factors for *Pneumocystis jirovecii* pneumonia in patients with rheumatoid arthritis receiving adalimumab: a retrospective review and case-control study of 17 patients. *Mod Rheumatol.* 23(6):1085-1093, 2013
9. Tanaka Y, Kawai S, Takeuchi T, Yamamoto K, Miyasaka N. Prevention of joint destruction by tacrolimus in patients with early rheumatoid arthritis: a post hoc analysis of a double-blind, randomized, placebo-controlled study. *Mod Rheumatol.* 23(6):1045-1052, 2013
 10. Takeuchi T, Yamanaka H, Ishiguro N, Miyasaka N, Mukai M, Matsubara T, Uchida S, Akama H, Kupper H, Arora V, Tanaka Y. Adalimumab, a human anti-TNF monoclonal antibody, outcome study for the prevention of joint damage in Japanese patients with early rheumatoid arthritis: the HOPEFUL 1 study. *Ann Rheum Dis.* 2013 Jan 11. [Epub ahead of print]
 11. Matsuo Y, Mizoguchi F, Kohsaka H, Ito E, Eishi Y, Miyasaka N. Tocilizumab-induced immune complex glomerulonephritis in a patient with rheumatoid arthritis. *Rheumatology (Oxford).* 52(7):1341-1343, 2013
 12. Murakami M, Harada M, Kamimura D, Ogura H, Okuyama Y, Kumai N, Okuyama A, Singh R, Jiang JJ, Atsumi T, Shiraya S, Nakatsuji Y, Kinoshita M, Kohsaka H, Nishida M, Sakoda S, Miyasaka N, Yamauchi-Takahara K, Hirano T. Disease-association analysis of an inflammation-related feedback loop. *Cell Rep.* 3(3):946-959, 2013
 13. Miyabe Y, Miyabe C, Iwai Y, Takayasu A, Fukuda S, Yokoyama W, Nagai J, Jona M, Tokuhara Y, Ohkawa R, Albers HM, Ovaa H, Aoki J, Chun J, Yatomi Y, Ueda H, Miyasaka M, Miyasaka N, Nanki T. Necessity of lysophosphatidic acid receptor 1 for development of arthritis. *Arthritis Rheum.* 65(8):2037-2047, 2013
 14. Takeuchi T, Kawai S, Yamamoto K, Harigai M, Ishida K, Miyasaka N. Post-marketing surveillance of the safety and effectiveness of tacrolimus in 3,267 Japanese patients with rheumatoid arthritis. *Mod Rheumatol.* 2013 May 14. [Epub ahead of print]
 15. Takayasu A, Miyabe Y, Yokoyama W, Kaneko K, Fukuda S, Miyasaka N, Miyabe C, Kubota T, Nanki T. CCL18 activates fibroblast-like synoviocytes in patients with rheumatoid arthritis. *J. Rheumatol.* 40(6):1026-1028, 2013
 16. Mizoguchi F, Murakami Y, Saito T, Miyasaka N, Kohsaka H. miR-31 controls osteoclast formation and bone resorption by targeting RhoA. *Arthritis Res Ther.* 15(5):R102
 17. Yamamoto K, Takeuchi T, Yamanaka H, Ishiguro N, Tanaka Y, Eguchi K, Watanabe A, Origasa H, Iwai K, Sakamaki Y, van der Heijde D, Miyasaka N, Koike T. Efficacy and safety of certolizumab pegol without methotrexate co-administration in Japanese patients with active rheumatoid arthritis: the HIKARI randomized, placebo-controlled trial. *Mod Rheumatol.* 2013 Nov 1 [Epub ahead of print]
 18. Harigai M, Mochida S, Mimura T, Koike T, Miyasaka N. A proposal for management of rheumatic disease patients with hepatitis B virus infection receiving immunosuppressive therapy. *Mod Rheumatol.* 24(1):1-7, 2014
 19. Yamamoto K, Takeuchi T, Yamanaka H, Ishiguro N, Tanaka Y, Eguchi K, Watanabe A, Origasa H, Shoji T, Sakamaki Y, van der Heijde D, Miyasaka N, Koike T. Efficacy and safety of certolizumab pegol plus methotrexate in Japanese rheumatoid arthritis patients with

- an inadequate response to methotrexate: the J-RAPID randomized, placebo-controlled trial. *Mod Rheumatol*. 2013 Dec 9. [Epub ahead of print]
20. Cho SK, Sakai R, Nanki T, Koike R, Watanabe K, Yamazaki H, Nagasawa H, Tanaka Y, Nakajima A, Yasuda S, Ihata A, Ezawa K, Won S, Choi CB, Sung YK, Kim TH, Jun JB, Yoo DH, Miyasaka N, Bae SC, Harigai M; for the RESEARCH investigators; the REAL Study Group. A comparison of incidence and risk factors for serious adverse events in rheumatoid arthritis patients with etanercept or adalimumab in Korea and Japan. *Mod Rheumatol*. 2013 Dec 9. [Epub ahead of print]
 21. Tanaka Y, Yamamoto K, Takeuchi T, Yamanaka H, Ishiguro N, Eguchi K, Watanabe A, Origasa H, Shoji T, Miyasaka N, Koike T. Long-term efficacy and safety of certolizumab pegol in Japanese rheumatoid arthritis patients who could not receive methotrexate: 52-week results from an open-label extension of the HIKARI study. *Mod Rheumatol*. 2013 Dec 29. [Epub ahead of print]
 22. Yamanaka H, Ishiguro N, Takeuchi T, Miyasaka N, Mukai M, Matsubara T, Uchida S, Akama H, Kupper H, Arora V, Tanaka Y. Recovery of clinical but not radiographic outcomes by the delayed addition of adalimumab to methotrexate-treated Japanese patients with early rheumatoid arthritis: 52-week results of the HOPEFUL-1 trial. *Rheumatology (Oxford)*. 2014 Jan 17. [Epub ahead of print]
 23. Kojima M, Kojima T, Suzuki S, Takahashi N, Funahashi K, Kato D, Hanabayashi M, Hirabara S, Asai S, Ishiguro N. Alexithymia, Depression, Inflammation and Pain in Patients with Rheumatoid Arthritis. *Arthritis Care Res*. 2013, In press.
 24. 小嶋雅代, 小嶋俊久, 難波 大夫, 茂木 七香, 大谷 尚, 高橋 伸典, 加藤 大三, 舟橋 康治, 松原 浩之, 服部 陽介, 石黒 直樹. 関節リウマチ患者は薬物治療の変化をどのように感じているか; フォーカスグループによる質的研究. *中部リウマチ* 2013;43(1):17-20.
 25. 小嶋雅代. 周術期患者における死亡率と心血管イベントの発現. *リウマチ科* 2013; 46(4): 471-8.
 26. Dougados M, Soubrier M, Antunez A, Balint P, Balsa A, Buch MH, Casado G, Detert J, El-Zorkany B, Emery P, Hajjaj-Hassouni N, Harigai M, Luo SF, Kurucz R, Maciel G, Mola EM, Montecucco CM, McInnes I, Radner H, Smolen JS, Song YW, Vonkeman HE, Winthrop K, Kay J. Prevalence of comorbidities in rheumatoid arthritis and evaluation of their monitoring: results of an international, cross-sectional study (COMORA). *Ann Rheum Dis*. 2014;73(1):62-8
 27. Cho SK, Sakai R, Nanki T, Koike R, Watanabe K, Yamazaki H, Nagasawa H, Tanaka Y, Nakajima A, Yasuda S, Ihata A, Ezawa K, Won S, Choi CB, Sung YK, Kim TH, Jun JB, Yoo DH, Miyasaka N, Bae SC, Harigai M for the RESEARCH investigators and the REAL Study Group. A comparison of incidence and risk factors for serious adverse events in rheumatoid arthritis patients with etanercept or adalimumab in Korea and Japan. *Mod Rheumatol*. 2013 [Epub ahead of print]
 28. Kamishima T, Kato M, Atsumi T, Koike T, Onodera Y, Terae S. Contrast-enhanced whole body joint MR Imaging in rheumatoid patients on tumour necrosis factor-alpha agents: a pilot study to evaluate novel scoring system for MR synovitis *Clin Exp Rheumatol*. 31(1):154, 2013

29. Fukae J, Isobe M, Kitano A, Henmi M, Sakamoto F, Narita A, Ito T, Mitsuzaki A, Shimizu M, Tanimura K, Matsushita M, Kamishima T, Atsumi T, Koike T.
Positive synovial vascularity in patients with low disease activity indicates smouldering inflammation leading to joint damage in rheumatoid arthritis: time-integrated joint inflammation estimated by synovial vascularity in each finger joint Rheumatology. 52: 523-528, 2013
30. Ikeda K, Koike T, Wakefield R, Emery P. Is the glass half full or half empty? Arthritis Rheum, in press
31. Ikeda K, Seto Y, Narita A, Kawakami A, Kawahito Y, Ito H, Matsushita I, Ohno S, Nishida K, Suzuki T, Kaneko A, Ogasawara M, Fukae J, Henmi M, Sumida T, Kamishima T, Koike T. Ultrasound assessment of synovial pathologic features in rheumatoid arthritis using comprehensive multi-plane images of the 2nd metacarpophalangeal joint - Identification of the components which are reliable and influential on the global assessment of the whole joint. Arthritis Rheum. (in press.)
32. Ikeda K, Seto Y, Ohno S, Sakamoto F, Henmi M, Fukae J, Narita A, Nakagomi D, Nakajima H, Tanimura K, Koike T. Analysis of the factors which influence the measurement of synovial power Doppler signals with semi-quantitative and quantitative measures - a pilot multicenter exercise in Japan. Mod Rheumatol, in press
33. Takamura A, Hirata S, Nagasawa H, Kameda H, Seto Y, Atsumi T, Dohi M, Koike T, Miyasaka N, Harigai M. A retrospective study of serum KL-6 levels during treatment with biological disease-modifying antirheumatic drugs in rheumatoid arthritis patients: a report from the Ad Hoc Committee for Safety of Biological DMARDs of the Japan College of Rheumatology. Mod Rheumatol. 23(2): 297-303, 2013
34. Harigai M, Takamura A, Atsumi T, Dohi M, Hirata S, Kameda H, Nagasawa H, Seto Y, Koike T, Miyasaka N. Elevation of KL-6 serum levels in clinical trials of tumor necrosis factor inhibitors in patients with rheumatoid arthritis: a report from the Japan College of Rheumatology Ad Hoc Committee for Safety of Biological DMARDs. Mod Rheumatol. 23(2): 284-96, 2013
35. Fukae J, Tanimura K, Atsumi T, Koike T. Sonographic synovial vascularity of synovitis in rheumatoid arthritis. Rheumatology Sep 13, 2013 (epub ahead of print)
- H. 知的財産権の出願・登録
特になし

Ⅲ. 分 担 研 究 報 告

(分科会別)

RA診療ガイドライン作成分科会